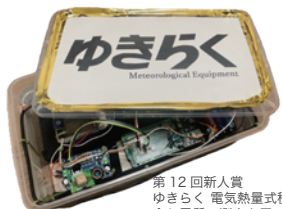


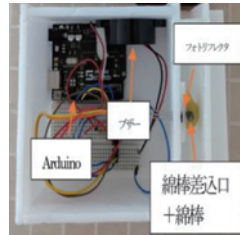
≫ これまでの作品例



第12回新人賞
ゆきらく 電気熱量式積雪含水率を含む雪質の測定を用いた雪かき予測所要時間通知システムの作成
市立札幌旭丘高等学校



第13回観客賞
鳥獣害発生予測システム「よりどりお天気」
鳥羽商船高等専門学校



第14回観星賞
硫化水素警報装置「りゅーくん」の開発
鹿児島県立国分高校



第14回佐々木嘉和賞
低コスト水中プロファイリングフロートを用いた水中環境調査システムの開発
兵庫県立長田高校 / 大阪明星高校 / 立命館慶祥高校

他にもユニークな作品が多数あり！
過去の作品はこちら



第13回新人賞
自動海水温計測機「Shiranui」～不知火現象の謎に迫る～
熊本県立宇土高校



第13回優秀賞
かしこみかしこみ！養豚お助け申す！
豚に託した快適な環境を提案するシステム
サレジオ工業高等専門学校

≫ 参加者した皆様の声

地元紙に掲載されたり、
テレビの取材を受けたり
し、多くの方に研究を
知ってもらうことができました。



チームワークや検証の
進め方、報告書の書き
方など良い経験となり
ました。



佐々木嘉和賞の副賞と
してアメリカ研修旅行
を経験できました。最先
端の気象観測技術を知
る事が出来ました。



≫ 個人情報の取扱いについて

- 申請書ならびに研究・活動資料の個人情報は、原則として本事業に関する業務遂行上必要な範囲（広報業務を含む）での利用に限定いたします。
- 最終選考会等で撮影した写真や映像は、本コンテストの記録及び広報活動（当財団ホームページ、SNS等）に使用させて頂く場合があります。
- 法令等の定める場合を除き、ご本人の同意を事前に得ることなく個人情報を第三者に提供することはいたしません。
- ご提供いただいた個人情報等の情報は当財団代表理事管理のもと事務局が適正に取り扱いを行います。

一般財団法人WNI気象文化創造センターについて

本法人は、気象に関心のある全ての人々及び気象事業を志す起業家に対し、気象に係る実用・実践的研究の奨励及びその研究成果の共有、活用を促進する事業を行うことによって気象文化の向上に寄与することを目的とし、株式会社ウェザーニューズ 創業者石橋博良氏及び同社等の出資により設立された一般財団法人です。

お問い合わせ先 / 応募先

一般財団法人WNI気象文化創造センター 高校・高専『気象観測機器コンテスト』係
〒261-0023 千葉県千葉市美浜区1-3 幕張テクノガーデンB棟19階
info@wxbunka.com / 043-274-3191

@WxBunka



一般財団法人WNI気象文化創造センター

高校・高専 『気象観測機器コンテスト』

募集期間 2026年2月2日 ▶▶ 6月30日

気象に関するあらゆるツールについて、斬新なアイデアを募集します。

従来の概念にとらわれない自由な発想やステキなアイデアで気象観測機器を作ってみませんか？
当財団ではこのコンテストの開催を通して、気象観測に興味を持つ若者たちを応援しています。

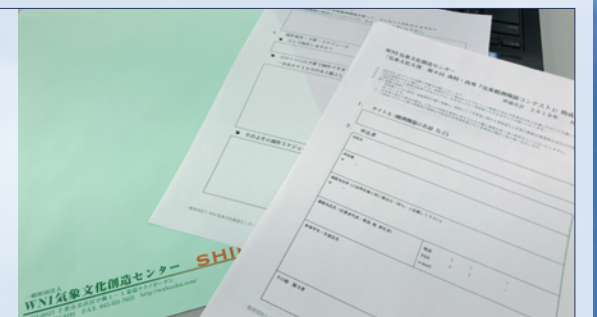
● コンテストの流れ ●

1

一次審査

製作する観測機器のアイデアや計画などを記載した申込書を提出。審査を通過すると10万円の製作費用が助成される。

期間A ▶4/30 期間B ▶5/31 期間C ▶6/30

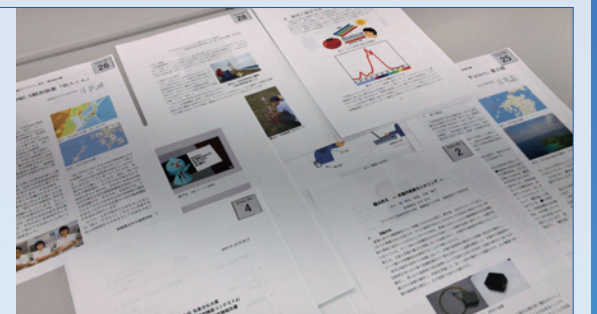


2

二次審査

実機の製作や実証実験を行い、報告書を提出。最終選考へ進む作品を決定する審査が行われる。

提出期限 11/10 ※全期間共通



3

最終選考

南極観測船 SHIRASE5002（千葉県船橋市）にてポスターセッション・プレゼンテーションを実施。選考委員が各賞を決定する。

2026/12/19（土）を予定



<https://www.wxbunka.com/> @WxBunka

気象文化

検索



第15 回 高校・高専『気象観測機器コンテスト』

気象を測る・知るツールについて、斬新なアイデアを募集します

一般財団法人 WNI 気象文化創造センターは、空を見て生活している人々が、雨や風、雪などの気象を観測し、いろいろなことを感じて生活する『気象文化の創造』を支援する団体として、さまざまな助成・支援活動をしております。

当財団では、高校生、ならびに高等専門学校（高専）の生徒・学生のみなさんを対象に、空の状態を測るツール（道具）について、従来の概念にとらわれない自由な発想、ステキなアイデアを募集しています。

空は、晴れや曇りの日もあれば、雨、雷雨、台風、粉雪、豪雪など、さまざまな表情を見せ、私たちに驚きを与え、安らぎを与え、感動を与えてくれることもあります。そんな変幻自在な空（雨・風・雪・気温・湿度など）をあなたは、どのようにして測りますか？

空の状態を知りたいときは、学校の観測機材を使うとか、インターネットで公開されている様々な気象データ から読み取るのが一般的です。しかし、センサー技術やネットワークが普及した今日では自分の頭の上にある空の状態を、自分で測り、その情報を他地域にいる仲間と共有することで、革新的な天気予報が生みだすこと ができる可能性が高まってきています。

世の中をアッと驚かせる新鮮な発想、夢のある構想、そして思わず空を見上げて測ってみたくなるような、実用的な気象観測機器のアイデア、お待ちしております！

コンテストの概要

タイトル： 第15回 高校・高専『気象観測機器コンテスト』
主催： 一般財団法人WNI 気象文化創造センター
参加対象： 全国の高等学校、高等専門学校（専攻科を除く）の生徒・学生
* 1校（統合再編された高専は 1 キャンパス）あたりの申し込み上限は3件まで。
募集形式： 1次審査、2次審査を経て、最終選考をコンテスト形式で実施。
助成金等： 1次審査通過者には、製作助成金として 10 万円を支給。実機製作にチャレンジ。2 次審査通過者は、12 月に千葉県内で開催予定のコンテストに ご招待します（交通・宿泊費として、1 候補につき上限 10 万円まで支給）。コンテストでは最優秀賞のほか、各賞の受賞者には賞金を授与。このほかに研修旅行などの副賞を授与することがあります。
* 海外の研修旅行の場合は 3 名まで。
審査委員： 審査委員長は東京大学の中須賀真一教授、第 50 次南極観測隊の 武田康男さん他、数名。

1次審査

応募方法：当財団のホームページに公開している応募用紙に必要事項を記入し、メールまたは郵送で事務局 に提出します。※提出先は次ページを参照ください。

応募締切：締切日を 3 回設けています。いずれの期間も **必着** です。

期間 A：2026 年 4 月 30 日

期間 B：2026 年 5 月 31 日

期間 C：2026 年 6 月 30 日

1 次 審 査：応募された書類をもとに気象観測機器の革新性・実用性を審査します。

審 査 結 果：結果は翌月に通知し、助成金を支給します。**※振込先は学校活動や部活動の口座のみとします。**

2次審査

製作・実験：**2026 年11月10 日までに**観測機器を製作して実証実験を済ませ、その結果を記した報告書を事務局に提出します。**※報告書の作成については【報告書】欄を参照ください。**

2 次 審 査：報告書の内容を審査し、最終選考へ進むことができる作品を決定します。

審 査 結 果：**2026 年 11 月下旬**に、2 次審査を通過した作品の代表者（担当教諭等）に連絡します。通過者は、最終選考までの間にポスターセッション資料や必要に応じてプレゼン動画を製作します。最終選考会場までの交通費は規定の範囲内で支給します。

最終選考・表彰式

日 時：**2026 年12月 19 日（土）**

場 所：日本で 3 代目の**南極観測船 SHIRASE5002 船内特設会場**（千葉県船橋市）を予定。
※状況に応じて日時、会場、開催形式等を変更する場合があります。

内 容：2 次審査を通過した作品は「ポスターセッション」にて選考委員へのプレゼンテーションを行います。選考委員はこれらをもとに各賞を決定します。

表 彰：最優秀賞・優秀賞の他、特別賞などの受賞作品を表彰します。

報告書

2 次審査で提出する報告書は、**こちらを参照し作成ください。**

・作品の**参加メンバーの名前**を記入すること。※最終選考会の会場準備や賞状等に必要です

・**A4 サイズ 5 ページ以内**（タイトルを含む）、**フォントサイズ 10 ポイント以上**であること。

・**目的、実証実験の内容、結果、考察が端的**にまとめられていること。

・前回、またはそれ以前から継続している作品の場合、**前回までの内容と今回の内容が明確**に記されていること。

・データや写真などを大量に添付する場合は、**付録として(報告書とは分けて) 提出**すること。

選考のポイント

以下の項目は、これまでのコンテストで選考委員が重視した視点をまとめたものです。状況により変更される場合もありますので、一つの目安として参考にしてください。

独創性（オリジナリティ） 既成概念にとらわれない、斬新かつユニークな発想に基づいていること。	性能・完成度 観測機器としての精度や動作の安定性が優れていること。	実 用 性 具体的な利便性があり、将来的な社会実装や商品化の可能性を秘めていること。	発 展 性 現状に満足せず、さらに先の進化形や応用イメージが明確であること。	アピール 報告書やポスターセッションにおいて、機器の魅力を論理的・情熱的に伝えられていること。		
継 続 性 先輩達が製作した作品を継承し、精度や完成度を高める工夫が見られること。	チームワーク メンバー間の連携が図られ、組織的に製作や観測が行われていること。	プロセス（過程） 完成に至るまでの試行錯誤、失敗への対処、努力の跡が見えること。	地 域 性 地元の地形・気象・産業など、地域特有の課題や特徴に着目していること。	グローバル 将来、グローバルな分野での活躍が期待できる視点や資質があること。	観測・考察 機器を製作するだけでなく、得られたデータの分析や考察が論理的で優れていること。	報 告 書 内容が簡潔で分かりやすいこと。前年度までの成果と今回の新規性が明確であること。